CASBEE®名古屋 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 |使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要

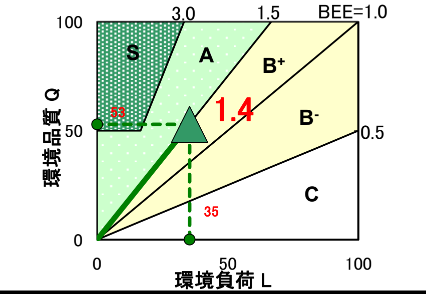
建物名称	(仮称)H1O名古屋	階数	地上12F
建設地	名古屋市中村区名駅南1丁目2313(地番)	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	650 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	
竣工年	2028年5月 予定	評価の実施日	2026年5月14日
敷地面積	430 ㎡	作成者	
建築面積	319 ㎡	確認日	2026年5月29日
延床面積	3,720 ㎡	確認者	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.4 ★★★

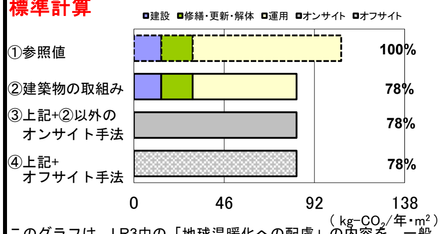
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

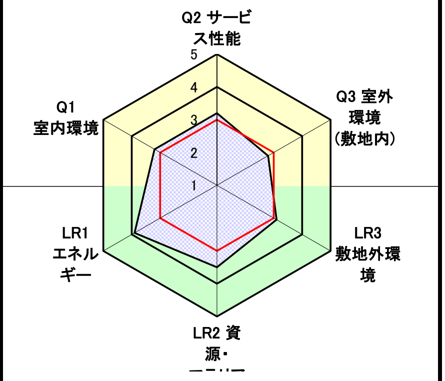
☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

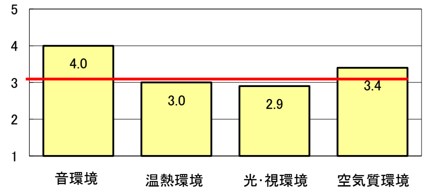


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 *Q のスコア= 3.1*

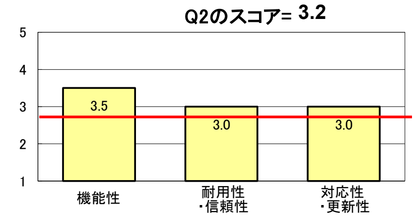
Q1 室内環境

Q1のスコア=3.2



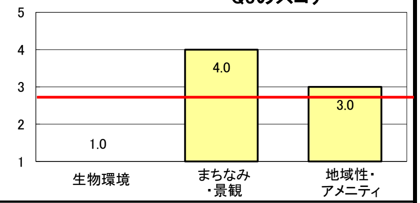
Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2



Q3 室外環境(敷地内)

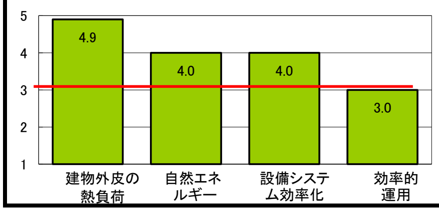
Q3のスコア= 2.8



LR 環境負荷低減性 *LR のスコア= 3.5*

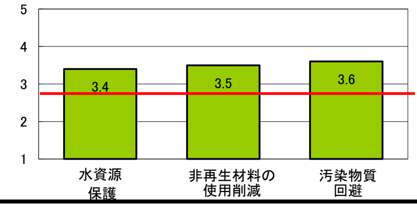
LR1 エネルギー

LR1のスコア=3.9



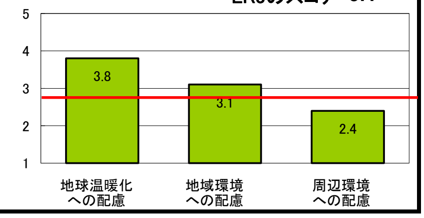
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5



LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.1



3 設計上の配慮事項

総合	その他
	構造体を一部木造化としており、室内環境のヴァリューUPやS造と比較してのCO2排出量の低減に努めた

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
すべての貸事務室に換気と採光を確保し、快適で健康的な執務環境を整える。	入居テナントの利用者が自由に利用できるラウンジ、屋上のテラスを設け、共用スペースの充実を図る。	できる限り緑化を行い、自然を感じられる空間とする。

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
太陽光パネルを屋上に設置。	国産材の使用を心掛けた	屋上設備機器が露出しないよう目隠しパネルを設置し、周辺の景観を損なわないよう配慮する

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency(建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality(建築物の環境品質)、L: Load(建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction(建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency(建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE®名古屋 ┃評価結果┃

重点項目スコア・結果シート

（仮称）H1O名古屋

■使用評価マニュアル：　CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト：　CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				**3.9**
LR1	エネルギー	4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				**1.6**
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.090171433	
Q3.3.1 Q3.2	地域性への配慮、快適性の向上 まちなみ・景観への配慮 地域性のある材料の使用※1	無	0.009017143	
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045085716	
3. 循環型社会				**3.5**
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制　※2	3.5	0.016666667	

結果

1. 温暖化対策　　評価点　＝ 3.9

2. 自然共生　　評価点　＝ 1.6

3. 循環型社会　　評価点　＝ 3.5

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$重点項目スコア＝\frac{(評価点×全体に対する重み)の総和}{全体に対する重みの総和}$$

※1　ここでは、Q3．3．1の評価する取組みのうち評価項目　Ⅰ　2）地域性のある材料の使用　又は、Q3．2において評価する取組みのうち評価項目　4）地域性のある素材による良好な景観形成　のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3．3．1の全体に対する重みに0．2を乗じたものとしている。

※2　ここでは、LR3．2．3のうち、LR3．2．3．3　交通負荷抑制　を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3．2．3の評価点とは異なるものである。